

ツーサイト方式への転換により、衛生管理の効率化・高度化を実現

～農場の衛生レベル向上とリスク分散で家畜伝染病に対抗～

京都府

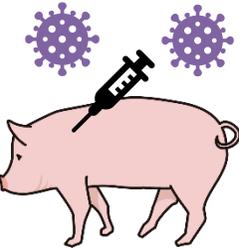
養豚

- ・一貫農場を繁殖農場に転換し、各部門を完全分離したツーサイト方式に変更。疾病リスクの低減や繁殖・肥育に特化した管理が容易となり、**安定的な養豚経営を実現**。
- ・地域の耕種農家が、農場内の飼養衛生管理エリアを通過せずに堆肥を搬出できるよう、**堆肥乾燥処理施設を場外に整備**。野外からの**豚熱ウイルス等の侵入リスクを低減**しつつ、地域の構築連携を維持。

①地域の現状

家畜伝染病防止のため、飼養衛生管理の効率化とリスク管理体制の構築が必要

豚熱・アフリカ豚熱リスクへの対応



・京都府内で養豚場における豚熱発生はないものの、近隣府県での発生や野生イノシシの感染など、侵入リスクは依然として高い状態



- ・同じ農場内に繁殖部門と肥育部門があると、家畜疾病が発生した際に、感染拡大のリスクが高い
- ・堆肥を取りに来る耕種農家が、生産エリアに入ってくると、防疫上のリスクがある。

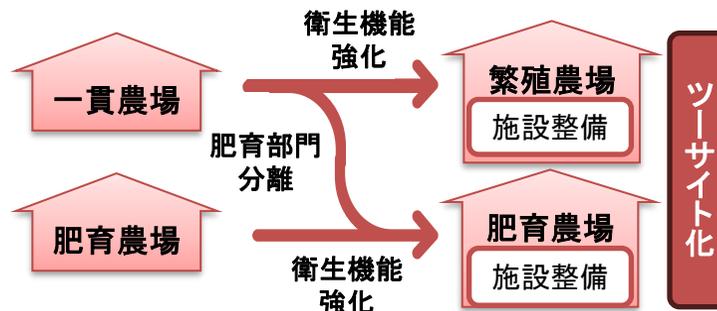
②取組内容・目標

- ・繁殖部門と肥育部門を別農場に分ける(ツーサイト)方式に転換
- ・繁殖農場から疾病リスクの少ない子豚を導入することで、事故率が低下し、生産成績が向上

地域のモデル的養豚経営(母豚950頭規模)

農場の衛生体制を強化(施設整備事業)

- ①一貫農場に分娩豚舎を整備し、繁殖農場に転換
 - ②遠隔地の肥育農場に豚舎を整備
 - ③場外に堆肥乾燥処理施設を整備し、農場内の動線を整理
- 目標: 肉豚販売額の増加(H30→R7)等



③目指す地域の姿

- ・府の登録を活用し、安心・安全な畜産物としてPR
- ・衛生管理水準の向上を通じた生産性向上により、モデル的な経営として、府内養豚農家へ取組を横展開

